

今年の薬害根絶デーは8月24日です！

<薬害根絶デー民医連のつどい>9:00~(平和と労働センター2階ホール)
学習講演「急がれる子宮頸がんワクチン副作用被害の実態究明と救済」(仮題)
講師：薬害オンブズパーソン会議事務局長 水口真希美 弁護士

<薬害根絶デー>

11:45~12:50 厚労省前リレートーク

13:00~13:15 厚労省前庭・碑の前行動

14:00~17:00 集会(日比谷コンベンションホール)

- ・子宮頸がんワクチン
- ・サリドマイド(予定)
- ・薬被連報告、薬弁連報告、行動提起

18:00~18:30 街頭宣伝(有楽町マリオン前)



~薬害根絶デーとは~

1999年8月24日、この日、薬害の反省を込めて、厚労省前庭に「誓いの碑」が建立されました。

「誓いの碑 命の尊さを心に刻み、サリドマイド、スモン、HIV感染のような医薬品による悲惨な被害を再び発生させることのないよう医薬品の安全性・有効性の確保に最善の努力を重ねていくことをここに銘記する。千数百名もの感染者を出した薬害エイズ事件、このような事件の発生を反省しこの碑を建立した。平成11年・厚生省」と、碑には刻まれています。

この日を薬害根絶デーとして、薬害を繰り返さない訴えを各地でおこなっていきます。

薬害根絶デー実行委員会にご参加ください！

日程：7月27日(月)・8月5日(水)

時間：18:30~20:30

場所：スモン公害センター(東京都新宿区新宿2-1-3
サニーシティ新宿御苑10F)



薬害スモン事件 三ニ学習会報告~part3~

薬害でも、公害でも、被害者や支援者が町に出て、その被害を訴えます。

でも、他人事ではないことを、すぐにはわかってもらえません。金目当てとか、国への感情的な抗議とか、色眼鏡で見られます。スモンも例外ではなく、感染症説の間違った情報もあり、偏見差別の中での訴えの行動でした。

しかし、真実他人事ではありません。薬害根絶の理念「こんな苦しみは二度と他の人に味あわせてはならない」という思いは、次第に多くの人を振り向かせていきました。多くの人たちが手を貸してくれるようになりました。

「自分達を例えた、ヤクルトの瓶に毛糸の服を着せた人形を、町会の人達がカンパとして買ったり、売ったりしてくれた。行商さんが、物売り次いでに署名やカンパを集めてくれた。」前回の東田医師の紹介のこともそんな時でした。

これらのことはどれだけ原告を幸せにしたか計り知れないと思いました。

被害に苦しむ人に寄り添う大切さをあらためて感じました。

今回はラスト・全国的裁判の判決、そして、薬事法改正と医薬品被害救済基金設立への原告の思いと、闘いについてです。



薬いろいろ話 ~市販薬の副作用について~

医薬品医療機器総合機構(PMDA)に報告された、2009~2013年の5年間で、市販薬による副作用の報告件数は1225例、内、死亡や後遺症が残ったのが各15例。内訳は風邪薬が400例と最多で、死亡も8例、次いでNSAID's279例、葉方134例。副作用の内容はSTJ、TEN、肝臓疾患、間質性肺炎、腎臓病、喘息重症発作。

以上は2015年4月、消費者庁による発表で、同時に、日本薬剤師会に「市販薬による副作用への注意喚起の徹底」を要請しました。

米国民が市販薬の単剤化をさせたように、セルフメディケーションは国民の薬への認識の向上が伴ってこそ安全なんです。

薬の安全な使用を確保することは、薬剤師の重要な仕事ですね。